

令和 2 年 10 月 27 日

名古屋教育医療記者会 各位

名古屋市立大学 医学・病院管理部事務課

課長 浅野 郁一 電話：052-858-7104

名古屋市立大学 医学研究科神経内科学分野

教授 松川 則之 電話：052-853-8094

## 名古屋市立大学病院に 「脳神経機能再生センター」を開設いたします

名古屋市立大学病院では、令和 2 年 11 月 1 日に脳神経機能障害を後遺された患者さんの集学的治療に寄与することを目指して「脳神経機能再生センター」を設置いたします。本取り組みを広くお知らせするとともに、是非、ご取材いただきますよう宜しくお願いいたします。

### (1) 設置趣旨

急速な高齢化に伴い脳卒中・神経変性疾患の有病率は飛躍的に急増しています。神経疾患の特徴に、病状が安定した後にも神経機能障害が後遺し、生活の質が著しく低下する患者さんが多くいらっしゃいます。近年、リハビリテーション医学的介入をはじめとした神経ネットワーク再構築・神経可塑性の誘導が機能回復に有効であることが科学的に立証されてきました。

当院においても 2004 年より進行期パーキンソン病患者さんを対象に、脳神経外科・脳神経内科・リハビリテーション科が協力して脳深部刺激療法 (Deep Brain Stimulation; DBS) (注 1) を開始しました。また、最近 continuous dopaminergic stimulation (CDS)

(注 2) の観点から、脳神経内科では新たに開発された L-DOPA 腸管内持続投与法 (注 3) も開始しています。その他、脳梗塞後の痙縮に対するボトックス治療、ジストニアなどの不随意運動や痛み治療としての深部脳刺激療法など新たな神経機能改善に向けた治療法をリハビリテーション科および脳神経外科など、関連各科にて導入してきました。今後、患者さん毎の病態に即して、これらの治療法の特徴から各領域の専門家の視点から適応を検討することが必要になってきました。

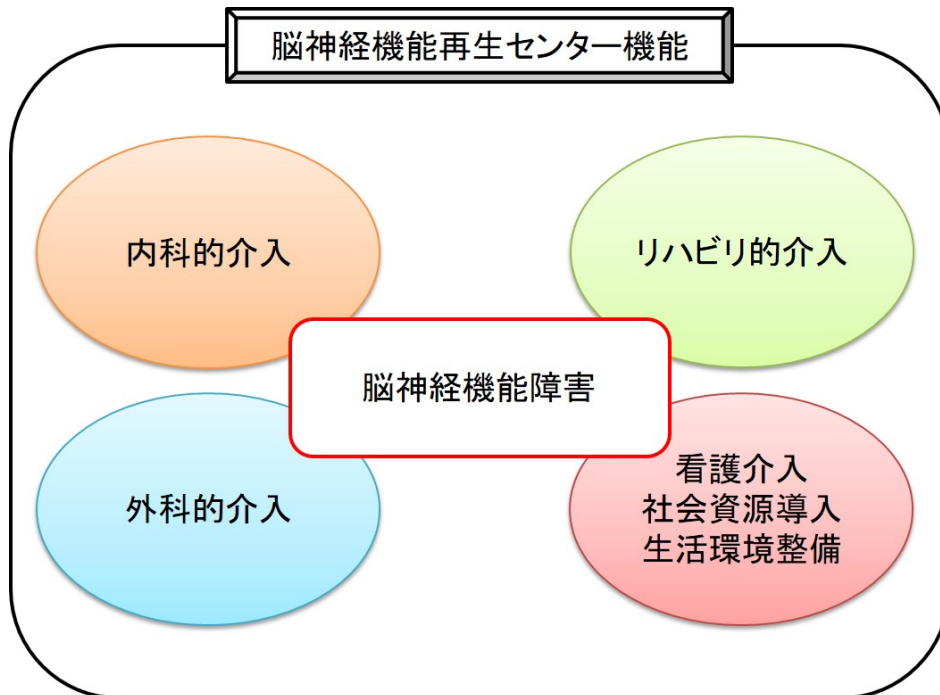
今回、脳神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・看護部・ケアワーカーの担う脳神経機能の回復に向けた治療機能をセンター化することにより、患者紹介受付の一元化と治療介入の集約化を行い、脳神経機能障害を後遺された患者さんの集学的治療に寄与することを目指します。

- (注1) 脳に植え込んだ電極を刺激することで、パーキンソン病の症状を改善する治療  
(注2) ドパミン受容体の持続的刺激がパーキンソン病における運動合併症（off 症状や不随意運動）を予防・改善するという理論  
(注3) 専用ポンプとチューブを使って薬剤の吸収部位である小腸に直接持続的に送り届ける治療法

(2) 特色

- ・ 近隣および周辺の医療機関からの受け入れ窓口の一元化
- ・ 受け入れ後の連携科協議による診断、治療適応の決定および治療介入
- ・ 看護、介護介入および社会資源の導入まで多職種連携で行う先進的な医療の提供
- ・ 治療後の診療継続に関する地域連携の推進
- ・ 市民公開講座等による一般市民・患者さん向けセミナーの実施

(3) 機能イメージ



(4) その他

取材をご希望の際は、事前に病院広報担当（長谷川・高橋 電話 052-858-7113）までご連絡をお願いします。